

USPTO 「Class ACT」 が切り拓く 商標分類の自動化時代

— AI エージェントによる知財行政の新基準 —

2026 年 4 月 1 日

1. はじめに

米国特許商標庁（USPTO）は 2026 年 3 月 19 日、AI エージェント「Class ACT」（Trademark Classification Agentic Codification Tool）を正式に発表・運用開始した¹。商標出願の前処理工程において、従来最大 5 か月を要していたニース分類の割り当て・デザインサーチコードの生成・擬似マーク（pseudo mark）の作成を「5 分、あるいは 5 秒」に短縮する^{1,2}。これは単なる検索支援ではなく、自律的にタスクを遂行する「エージェント型 AI」として設計された点が画期的である¹。USPTO が商標分野で本格的な AI エージェントを実稼働させたのはこれが初であり、知的財産行政における AI 活用の新たな基準点となる可能性がある。

2. 「5 か月を 5 秒に」 —Class ACT が解決する深刻なボトルネック

USPTO が抱えていた問題の核心は、商標出願の前処理工程（プレ・エグザミネーション）における深刻な遅延である。ロゴ・デザイン要素を含む出願や、非標準的な綴りの商標、国際分類が未指定の出願は、審査官による検索を可能にするために手作業でメタデータを付与する必要があった。出願件数の急増（FY2024 で 76 万 7,000 件以上の出願クラス）に伴い、この手作業が最大 5 か月の遅延を生む深刻なボトルネックとなっていた^{1,2}。

Class ACT は以下の 3 つの前処理タスクを自動化する。第一に、国際分類（ニース分類）の自動割り当て。未分類の出願に対し、適切な国際分類を即座に付与する。第二に、デザインサーチコードの自動生成。ロゴやデザイン要素を含む出願に対し、図形検索を可能にするコードを付与する。第三に、擬似マーク（pseudo mark）の自動作成。非標準的な綴りや記号

を含む商標について、検索可能なテキスト表現を生成する^{1,5}。

USPTO 長官 John A. Squires は「分類とデザインサーチコーディングに5か月？5分、あるいは5秒でどうだ」と述べ¹、Acting Chief AI and Data Officer の Rob Hayes（旧 Twitter/X の幹部から転身）は、正しい AI 活用がより速い結果、より高い品質、より満足なステークホルダーをもたらすと自信を示した^{5,9}。重要な点として、AI 生成情報は人間の職員によるレビューを経て初めて有効となる仕組みが維持されている^{1,3}。

3. 技術基盤と「エージェント型」の意味

Class ACT の技術基盤について、USPTO は使用している LLM や AI モデルを公式には開示していない。しかし、USPTO の広範な AI エコシステムから技術的方向性を推察できる。USPTO は内部向け生成 AI チャットボット「SCOUT」（Searching, Consolidating, Outlining, and Understanding Tool）を開発しており、これは複数の LLM を統合したシステムとされる^{6,7}。2025年6月には SAM.gov を通じて AI ツールの産業パートナーを募集する RFI（情報提供要請）を発出しており⁸、Clarivate 社との提携による「DesignVision」（AI 画像検索）や、1億2,000万件以上の文書を横断検索する「MLTD」（More Like This Document）など、多層的な AI 基盤を構築済みである⁶。

「Class ACT」の名称に含まれる「Agentic」という用語は重要な意味を持つ。これはチャットボットや検索補助ツールではなく、特定のタスクを自律的に完遂するエージェント型 AI システムであることを示している。従来の USPTO AI ツールが検索支援（MLTD）やパイロット実験（ASAP!）の段階にとどまっていたのに対し、Class ACT は本番環境で稼働する自律型 AI として位置づけられている点が決定的に異なる^{1,10,11}。

4. USPTO の AI 戦略全体像における位置づけ

Class ACT は孤立したツールではなく、USPTO が加速させている AI 戦略の重要な一環である。2025年1月に包括的な AI 戦略を公表し、5つの優先事項（AI 革新のための IP 政策

推進、AI インフラ強化、責任ある AI 利用、AI 人材育成、国際協力) を掲げた⁶。2025 年 10 月には AI 自動先行技術検索パイロット「ASAP!」を特許分野で開始^{10,11}、AI ツールを活用して数千件の不正商標登録を特定・取消している⁶。

2026 年 3 月 19 日の Class ACT 発表からわずか 6 日後の 3 月 25 日には、USPTO は商標登録のための AI 画像検索ツールと記述草案作成ツールの追加投入を予告した¹²。USPTO の FY2026 予算では、FY2028 までに商標のファーストアクション・ペンデンスシーを 4.5 か月に短縮する目標を掲げ、FY2026 に 75 名の追加審査官採用も計画している¹³。

5. 商標実務家の反応—「慎重な楽観」

Reed Smith 法律事務所の Mitesh P. Patel 弁護士は、(願わくは正確な) 分類情報がほぼ即座に提供されると述べ、括弧内の表現に精度への懸念をにじませた³。同氏は具体的に 5 つの影響を挙げている。処理時間の短縮、検索性の向上、テクノロジー企業への特段の恩恵(ソフトウェアや AI サービスの分類は複雑)、人間による監督の維持、そして今後のさらなる AI ツール導入である³。

Sterne Kessler 法律事務所は、審査前の実質的な遅延の短縮、検索精度の向上、分類ボトルネックによるバックログリスクの低減を期待しつつも、USPTO の品質管理体制に注目すべきだと指摘した⁴。Woodard Emhardt 法律事務所の Jeremy J. Gustrowsky 弁護士は最も率直に、Class ACT が野心的な触れ込みに見合うかどうかはまだわからないと述べ、実務家に対しこのツールが検索品質と審査タイムラインにどう影響するか注視すべきと勧告した³。

6. 精度・責任・過信—構造的リスク

6.1 分類精度の問題

Class ACT の最大のリスクは分類精度の問題である。USPTO の Kathleen Cooney-Porter 上級法律顧問は「高い精度で」と述べたが、具体的な精度指標(正答率等)は公表されていない²。過去の事例として、USPTO が特許分類を外部委託した際に約 10% の誤分類率が発

生し、ケース移管による遅延が生じたことが報告されている¹⁷。商標における誤分類は、出願拒絶、返金不可の USPTO 手数料の浪費、保護範囲の脆弱化、侵害に対する脆弱性をもたらさうる³。

6.2 法的責任の所在

法的責任の所在も未整理である。Class ACT が誤分類し、人間のレビューアーがそれを承認した場合、責任は AI ツールにあるのか、レビューアーにあるのか、出願人にあるのか。USPTO の 2024 年 4 月の連邦官報ガイダンスは、実務家の「誠実義務（duty of candor and good faith）」は AI ツールの使用にかかわらず維持されるとし、開示義務を AI ツールに移転することはできないと明確にした^{14,15}。

6.3 AI への過度な依存リスク

人間によるレビューが維持されるとはいえ、AI 出力の「追認」が形骸化すれば、監視機能は実質的に失われる。Skadden の分析は「AI への過度な依存」がもたらす重大な誤記や欠落のリスクを指摘している¹⁵。GAO（米国会計検査院）の 2025 年報告書が USPTO の品質管理イニシアティブの不十分さを批判していることも、この懸念に重みを加える¹⁶。さらに、外部実務家が USPTO の分類データに依拠してクリアランス検索を行っているため、AI 生成の誤分類が下流のクリアランス意見やリティゲーションリスクに連鎖する可能性がある³。

7. 世界の知財庁における AI 活用比較

Class ACT を国際的文脈に位置づけるため、主要知財庁の AI 活用状況を比較する。

機関	主要 AI ツール	分類支援	画像検索 AI	一般公開	導入姿勢
USPTO	Class ACT (2026 年 3 月)	ニース分類・デザインコード自動付与	DesignVision (Clarivate 連携)	内部ツール	積極的・迅速展開
EUIPO	TMview・TM クラス・Early TM Screening (2025 年 11 月)	TMclass + G&S Builder	TMview AI 画像検索 (5,700 万件以上)	高い	最も先進的

WIPO	Global Brand DB・Vienna 分類アシスタント	ニューラルネットワーク意味検索	DL 画像類似検索 (2019 年～)	高い	パイオニア
JPO	AI 画像商標検索 (2023 年 4 月～)	指定商品・役務調査 (技術実証段階)	審査官向け AI 画像検索	内部のみ	慎重・段階的
KIPO	AI 図形商標検索 (2020 年～)	AI-OCR 分類 (2023-24 年)	AI 図形商標検索	限定的	急加速中

EUIPO が最も先進的であり、2025 年 11 月に出願前 AI スクリーニングツール (Early TM Screening) を一般公開し、5,700 万件超の図形商標を AI 画像検索可能にしている^{19,20}。WIPO はクロスボーダーの AI ツールのパイオニアで、2019 年から Global Brand Database で AI 画像類似検索を、2020 年から Vienna 分類アシスタントを無料提供している^{21,22,23}。TM5 の枚組みでは、2023 年に TMview の AI 画像検索が全 TM5 庁のデータに拡大された^{20,33}。

8. JPO の慎重な AI 戦略と日本の実務家の視点

JPO のアプローチは USPTO と対照的に慎重かつ段階的である。FY2017 年から開始した AI 活用研究を基に「AI 活用アクション・プラン」(FY2022-2028 年版、毎年改訂)を策定し、9 つの重点分野で段階的に技術実証・実装を進めている²⁴。2023 年 4 月に審査官向け AI 図形商標画像検索を実装したが、テキスト商標検索は NTT データとの共同研究段階、指定商品・役務の分類支援は技術実証段階にある^{25,26,27}。JPO は 2021-22 年に Nishika 社と共催した機械学習コンペティションで図形商標類似検索の精度を従来の約 2 倍に向上させるなど、独自のアプローチも採用している²⁵。

制度面では、2025 年 6 月に JPO の産業構造審議会商標制度小委員会が AI 生成商標の登録可能性を正式に確認した^{28,29}。商標法は「創作物」ではなく「選択物」を保護するため、人間による創作は要件とならないという整理である^{29,35}。日本弁理士会 (JPAA) は 2025 年 4 月に「弁理士業務 AI 利活用ガイドライン」を公表し、善管注意義務の維持、守秘義務への配慮、AI ハルシネーションリスクへの注意を求めている³⁰。

日本の実務家の反応は二極化している。白坂弁理士法人は ChatGPT を商標出願業務に活用し、業務負担を約 1/3 に削減した事例が報告されている³¹。一方、商標登録ドットコムは「AI は弁理士の業務を代替できない。クライアントの事業計画を聴取し適切な出願を準備する専門的判断は人間にしかできない」と慎重な立場を示している³²。

9. 企業のブランド戦略・知財ポートフォリオ管理への示唆

Class ACT の導入は、企業の知財戦略にいくつかの具体的な変化をもたらす。保護取得までの時間短縮により、製品ローンチや市場参入に合わせたタイムリーな権利取得が容易になる^{3,34}。従来、ロゴやデザインマークは単純な文字商標に比べて不釣り合いに長い前処理遅延を被っていたが、Class ACT によりこの格差が解消される。これは特にテクノロジー企業にとって重要である。ソフトウェア（第9類と第42類の境界など）や AI サービスの分類は複雑であり、迅速かつ正確な分類は出願戦略の最適化に直結する³。

ただし、企業と代理人は注意を要する。15 U.S.C. § 1112 は、分類自体が出願人の実体的権利を制限も拡張もしないと規定しているが、実務上は誤分類が権利行使の実効性を低下させるリスクがある³。AI 分類の普及により、実務家は USPTO の自動分類結果を独立して検証する能力を維持・強化する必要があり、AI 出力を舐呑みにする「分類リテラシーの低下」は中長期的なリスクとなりうる。

グローバルな知財ポートフォリオ管理の観点では、各国知財庁の AI 分類ツール間の整合性と相互運用性が新たな課題となる。USPTO の Class ACT、EUIPO の TMclass、WIPO の G&S Terms Explorer がそれぞれ異なる AI モデルで分類を提案する状況では、同一の商品・役務が庁ごとに異なる分類を提案される可能性があり、マルチジュリスディクション出願戦略の複雑性が増す。TM5 ID List のようなハーモナイゼーション・イニシアティブの重要性は今後さらに高まるだろう³³。

10. 結論

Class ACT は USPTO の商標実務における構造的ボトルネックに対する技術的解答として登場した。処理速度の劇的改善（5 か月→5 分）は実務家にとって歓迎すべき変化であり、商標出願エコシステム全体の効率化に寄与する可能性が高い。しかし、その真価は今後数か月の運用実績—特に分類精度の具体的数値と、人間によるレビューの実効性—で判断される。

注目すべき新たな知見として、Class ACT は世界の主要知財庁の AI 導入において「後発だが大胆」という独特の位置を占めている。EUIPO が 2019 年から段階的に AI ツールを一般公開し^{18,19}、WIPO が 2020 年に Vienna 分類アシスタントを提供開始していたのに対し²²、USPTO は 2026 年に「エージェント型 AI」として一気に実装した¹。この「後発の利益」を活かし、他庁の経験を踏まえたより高度なシステムを構築できたかどうかは、今後の精度データの公開を待つ必要がある。知財実務家と企業にとって、AI 分類ツールの出力を批判的に検証する能力—すなわち「AI リテラシー」—の重要性は、Class ACT の登場によってむしろ高まったと言える。

参考文献

- [1] USPTO, "Trademark classification goes agentic with USPTO's announcement of "Class ACT" assistant," March 19, 2026. <https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/trademark-classification-goes-agentic-usptos-announcement-class-act-assistant>
- [2] US Patent, "USPTO Launches AI Tool That Cuts Trademark Classification Time from Five Months to Five Minutes," March 2026. <https://www.uspatent.com/2026/03/uspto-launches-ai-tool-that-cuts-trademark-classification-time-from-five-months-to-five-minutes/>
- [3] Lexology (Reed Smith LLP / Mitesh P. Patel), "AI Comes to Trademark Law: What USPTO's Class ACT Means for Brand Owners," March 2026. <https://www.lexology.com/library/detail.aspx?g=5edcb0b6-438c-48f0-be55-a4e2958e1265>
- [4] Sterne Kessler, "USPTO Launches AI Examination Tools – What This Means for Trademark Applicants," March 2026. <https://www.sterneessler.com/news-insights/insights/uspto-launches-ai-examination-tools-what-this-means-for-trademark-applicants/>
- [5] Executive Gov, "USPTO Launches 'Class ACT' AI Tool to Accelerate Trademark Classification," March 2026. <https://www.executivegov.com/articles/uspto-ai-trademark-classification>
- [6] Crowell & Moring LLP, "AI Innovation: What Companies Need to Know About How the USPTO is Implementing AI Technologies to Modernize its Workflows," 2026. <https://www.crowell.com/en/insights/client-alerts/ai-innovation-what-companies-need-to-know-about-how-the-uspto-is-implementing-ai-technologies-to-modernize-its-workflows>
- [7] MeriTalk, "USPTO Officials Share Details on New Internal GenAI Tools." <https://www.meritalk.com/articles/uspto-officials-share-details-on-new-internal-genai-tools/>
- [8] Federal News Network, "USPTO wants to push AI deeper into its processes," June 2025. <https://federalnewsnetwork.com/artificial-intelligence/2025/06/uspto-wants-to-push-ai-deeper-into-its-processes/>
- [9] USPTO, Robert Hayes biography. <https://www.uspto.gov/about-us/robert-hayes-1>
- [10] IP.com, "Leaning Into AI: What the USPTO's ASAP! Pilot Means for the Future of Patent Examination." <https://ip.com/blog/leaning-into-ai-what-the-usptos-asap-pilot-means-for-the-future-of-patent-examination/>
- [11] Federal News Network, "USPTO to use AI tool for automated search pilot," October 2025. <https://federalnewsnetwork.com/artificial-intelligence/2025/10/uspto-to-use-ai-tool-for-automated-search-pilot/>
- [12] Law360, "USPTO To Launch AI Image Search, Description Tools For TMs," March 25, 2026. <https://www.law360.com/articles/2456003/uspto-to-launch-ai-image-search-description-tools-for-tms>
- [13] USPTO, FY2026 President's Budget Request. <https://www.uspto.gov/sites/default/files/documents/fy26pbr.pdf>
- [14] Federal Register, "Guidance on Use of Artificial Intelligence-Based Tools in Practice Before the USPTO,"

- April 11, 2024. <https://www.federalregister.gov/documents/2024/04/11/2024-07629/>
- [15] Skadden, "USPTO Provides Guidance on Using AI-Based Tools in Filing and Preparing Patent and Trademark Applications," May 2024. <https://www.skadden.com/insights/publications/2024/05/uspto-provides-guidance-on-using-ai-based-tools>
- [16] IPWatchdog, "GAO Says USPTO Falls Short on Oversight, Patent Quality Efforts," May 2025. <https://ipwatchdog.com/2025/05/08/gao-says-uspto-falls-short-oversight-patent-quality-efforts/id=188731/>
- [17] IPWatchdog, "When USPTO Classifies an Application Incorrectly," March 2014. <https://www.ipwatchdog.com/2014/03/11/when-uspto-classifies-an-application-incorrectly/id=48457/>
- [18] EUIPO, "Transformation of IP Offices through responsible use of AI," by James Nurton. <https://www.euipo.europa.eu/en/news/transformation-of-ip-offices-through-responsible-use-of-ai-by-james-nurton>
- [19] EUIPO, "EUIPO launches new AI-powered tool to screen trade marks before filing," November 2025. <https://www.euipo.europa.eu/en/news/euipo-launches-new-ai-powered-tool-to-screen-trade-marks-before-filing>
- [20] EUIPO, "AI at EUIPO: In-house image search in TMview extended to all TM5 offices." <https://www.euipo.europa.eu/en/news/ai-at-euipo-in-house-image-search-in-tmview-extended-to-all-tm5-offices>
- [21] WIPO, "State-of-the-Art AI-Based Image Search Tool for Brands," 2019. https://www.wipo.int/pressroom/en/articles/2019/article_0005.html
- [22] WIPO, "WIPO Launches New AI-Based Tool, the Vienna Classification Assistant," 2020. https://www.wipo.int/en/web/global-brand-database/w/news/2020/news_0006
- [23] WIPO, AI Tools and Services. <https://www.wipo.int/en/web/ai-tools-services>
- [24] JPO, "人工知能（AI）技術の活用に向けた取組." https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/index.html
- [25] JPO, "AI×商標：イメージサーチコンペティションの開催." https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-image.html
- [26] Abe, Ikubo & Katayama, "Advancements in Trademark Examination Using AI by the JPO," January 2025. <https://www.aiklaw.co.jp/en/whatsnewip/2025/01/22/5268/>
- [27] JPO / NTT Data, "令和 5 年度 人工知能技術等を活用した文字商標検索に関する実証的研究事業調査報告書," March 2024. https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/240930_ai_tm_katsuyou/01.pdf
- [28] 日経新聞, "AI が作成した文字やマーク、商標登録認める 特許庁小委員会," June 2025. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA103AK0Q5A610C2000000/>
- [29] Keisen Associates, "JPO Confirms Registrability of AI-Generated Trademarks," 2025. <https://keisenassociates.com/jpo-confirms-registrability-of-ai-generated-trademarks-and-maintains->

current-framework-for-virtual-space/

- [30] 日本弁理士会 (JPAA), "弁理士業務 AI 利活用ガイドライン," April 2025. <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
- [31] 日経 xTECH, "商標出願に生成 AI を活用、弁理士が思いつかない具体例も出力."
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/08993/>
- [32] 商標登録ドットコム, "商標の検索調査や出願書類作成に AI は使えるの?" <https://shohyo-toroku.com/support/archives/332.html>
- [33] Managing IP, "Guest post: A smoother road thanks to TM5 harmonisation efforts."
<https://www.managingip.com/article/2a5bzmpbb4aam9rdv4jr4/>
- [34] MJ Zanon, "New agency AI tool cuts classification prep from 5 months to 5 minutes: How Class ACT Helps the USPTO Handle Figurative Marks Faster," March 2026. <https://mjzanon.com/brazilian-ip-news/new-agency-ai-tool-cuts-classification-prep-from-5-months-to-5-minutes-how-class-act-helps-the-uspto-handle-figurative-marks-faster/>
- [35] Authense 弁理士法人, "AI 生成のロゴや名称、商標登録できる?." <https://authense-ip.com/article/956/>